

2022.1.8

兵庫史を歩く No.22 福をいっぱい授かろう

# 兵庫七福神めぐり

## 七福神の由来

七福神とは、大黒天・毘沙門天・恵比須天・寿老人・福祿寿・弁財天・布袋尊の七つの神様の総称です。「七難即滅、七福即生」の説に基づくように、七福神を参拝すると七つの災難が除かれ、七つの幸福が授かると言われています。七福神の信仰は、室町時代の末期ころより生じ、江戸時代庶民の間で七福神めぐりが大ブームとなった。当時の庶民性に合致して民間信仰の最も完全な形となって育てられてきた。

### ①大黒天

大黒天は、大自在天の化身ともいわれ、大国主命と神仏習合したもの。一度仏となったが、再びこの世に現れたという。大地を掌握する神様（農業）でもある。大きな袋を背負い、打出小槌をもち、頭巾をかぶった姿が一般によく知られており、財宝、福德開運の神様として信仰されている。



### ②恵比寿天

七福神中唯一の日本の神様。イザナギ、イザナミの二神の第三子といわれ、満三歳になっても歩かなかったため船に乗せられて捨てられてしまった。やがて漂着した浜の人々によって手厚く祀られたのが信仰の始まりと伝えられている。左手に鯛をかかえ右手に釣り竿を持った親しみ深い姿で、漁業の神様で、特に商売繁盛の神様としても信仰が厚い。



### ③布袋尊

弥勒菩薩の化身といわれ、いつも笑顔を絶やさず人々に接し、大きな袋には宝物がいっぱい入っていて、信仰の厚い人に与えられたという。笑門来福、夫婦円満、子宝の神として信仰が厚い。



### ④毘沙門天

四天王の一仏で、別名「多聞天」という。七福神の中で唯一武将の姿をしており、右手に宝棒、左手には宝塔、足の下には邪鬼天の邪鬼を踏みつけている。七福神では融通招福の神として信仰されている。



## ⑤福祿寿

名前は、幸福の福、身分を表す祿、寿命を表す寿の三文字からなり、中国、道教の長寿神。長い頭、長い顎鬚、大きな耳たぶを持ち、年齢数千歳という。長寿、幸福の徳を持ち、鶴と亀を連れて、左手に宝珠、右手に巻物を括り付けた杖を持つ姿が特徴である。招徳人望の神様として信仰されている。



## ⑥寿老人

福祿寿と同じく星の化身で、にこやかな微笑みをたたえ、手には巻物を括り付けた杖、そして団扇や桃などをもち、鹿を従えた姿が一般的に知られている。団扇は難を払い、桃は長寿の印であり、鹿もまた長寿の象徴である。長寿延命、富貴長寿の神として信仰されている。



## ⑦弁財天

七福神の中で唯一の女神。元はインド河（水）の神であったが、やがて音楽の神、言語の神となり、日本に伝わった当初は「弁才天」と呼ばれていた。その後、財宝・芸術に関係深い吉祥天の性格が吸収され、「弁財天」と言われるようになり、財宝を授けてくださる神へととなった。知恵財宝・愛嬌縁結びの徳があるとされている。

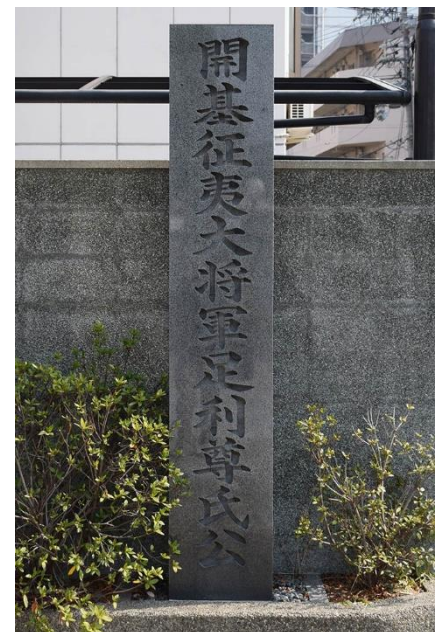


## (1)福海寺

臨済宗南禅寺派の寺で、門前に「開基足利尊氏」と刻まれた石碑があるように暦応5年（1342）足利尊氏が開いたと伝えられている。足利家歴代将軍の崇敬が厚く、尊氏や義満も度々参詣したといわれる。

寺の由緒によると、北畠顕家らの軍に敗れた尊氏は、一時この寺の前身である針ヶ崎観音堂に隠れたのち九州に逃れたが、やがて再起をめざして九州から兵庫の地に入って湊川の戦いに勝利した。二年後に室町幕府を開いた後、土地の人々への報恩のために観音堂のある場所に創建した。当時は少し西の方にあったが、嘉吉の乱で焼失しこの地に移った。昔は16もの僧坊がある大寺で、西惣門の前にあったことから兵庫津への出入りを監視していたといわれる。

本尊の大黒天は実は大小二体が祀られている。大きな一体は黒い忿怒相をしているインドの大黒さま。戦闘神であり、勝つ（戦いに勝つ、病に勝つ、勝負に勝つ）努力が報われる神様。小さなもう一体はニッコリ笑顔が印象的な大黒さま。中国から伝わった財福の神様。



## (2)柳原蛭子神社

「柳原のえべっさん」として親しまれており、毎年1月9日・10日・11日の十日えびす大祭には約25万人の参詣客で賑わう。

えびす信仰は平安時代から始まったとされ、商いなど庶民の文化が発展した室町時代より一般的に広まった。十日えびすの賑わいは主に関西だけにみられ、商人の町である大阪を中心にした信仰である。社伝によると、蛭子大神（えびす様）が船に乗り淡海島から津国に遷座し、社が創建されたという。十日えびすの9日には、淡路人形浄瑠璃神楽「戎舞」が奉納される。また、平成22年（2010）社殿が新しくなってから、十日えびす初日には神戸中央卸売市場から大マグロのおみこしを担いでえびす様に奉納する神事も行われる。

## (3)柳原天神社

菅原道真ゆかりの神社の一つ。延喜元年（901）道真が九州大宰府に左遷される途次、暴風雨を避けるために和田岬に一時上陸したと言われる。折しも咲き誇る梅花を見て、

風さむみ 雪にまかへて咲く花の 袖にぞ移れ匂ふ 梅が香

と詠じた。彼の死後、大宰府安楽寺から分霊を受けて祀ったのが始まり。

## (4)能福寺

桓武天皇の命により唐に留学していた伝教大師最澄が延暦24年（805）に帰途和田岬に上陸し、この地で歓待した庶民によって建てられた堂宇に大師自ら刻んだ薬師如来像を安置し、国の安泰と民の幸福を祈願して能福護国密寺と称したのが寺の創建と伝わる。伝教大師による我が国最初の教化霊場とされる。

- ・ **兵庫大仏**……明治24年（1891）に豪商南条莊衛門により建立された。奈良・鎌倉と共に日本三大仏に数えられる。初代は大戦中の昭和19年（1944）5月に解体され、金属として供出された。その後多数の檀徒市民や企業の協賛により47年振りに再建された。平成3年5月の開眼法要には比叡山天台座主を導師として、東大寺管長、鎌倉大仏貫主臨席のもとで盛大に行われた。大仏の高さは11m、台座の高さは7m、重さ約60トで総工費は約5億円。



- ・ **ジョセフ・ヒコの英文碑**……神戸に来た外国人が有名な兵庫大仏へ多数やって来ることから、明治25年ころ時の住職がジョセフ・ヒコに依頼して、英文で能福寺の縁起を書いてもらった。彼は船乗りで13才の時遠州灘で遭難し、漂流中米国船に助けられ米国に渡った。滞在中リンカーン大統領とも面談、握手した唯一の日本人である。ペリーの通訳として帰国した。また彼は日本で初めて新聞を発行し、「新聞の父」と言われている。

- ・ **北風正造顕彰碑**……北風家は兵庫の豪商であり、名主でもあり、「兵庫の北風か、北風の兵庫か」と言われるほどであった。鳥羽伏見の戦いで幕府軍が敗れた後、朝敵となった姫路藩は官軍の追討を受ける運命にあった。その際北風正造が仲裁に入り、軍資金 15 万両と引き替えに姫路藩攻撃を止めるという和解案で解決した。（この資金を出したのが北風正造である。）
- ・ **平相国廟**……平清盛は仁安 3 年（1168）に能福寺で剃髪、出家した。さらに亡くなり茶毘に付された後、能福寺の住職円実法眼がその遺骨を持ち帰り、寺領内の八棟寺に廟を造営したといわれる。その後平家滅亡によりすべて灰燼に帰した。弘安 9 年（1286）時の執権北条貞時が清盛の霊を弔うために、十三重の石塔を建てた。昭和 55 年（1980）になって清盛の 800 年忌を機に、清盛の墓を再建する運びとなり、完成したのが平相国廟である。
- ・ **滝善三郎正信慰霊碑**……慶応 4 年（1868）1 月 11 日神戸三宮付近で警備の備前藩士の行列の前を横切った外国人を傷つけるという「神戸事件」が発生した。備前藩では彼を責任者として各国代表立ち合いのもと、切腹させることで事件の解決を図った。市民は彼を事件の犠牲者として哀れみ、慰霊碑を建てた。

## (5)和田の笠松

かつて須佐の入江の浜には和田の笠松がそびえ、入港する船の目印となっていた。また、道行く人々の目印の松でもあった。鎌倉時代初期の歌人藤原為家の歌にも歌われており、古くから有名な松であった。

笠松は次々に植え継がれていたが、おしくも戦災により焼失した。今は須佐野公園に石碑と案内板がある。



秋風の吹き来る峯の村雨に さして宿かる和田の笠松

## (6)真光寺

「遊行上人」として知られる一遍上人（1239～1289）が開いた時宗の寺で、「時宗の三檀林（学問所）」の一つである。

一遍上人は信心のあるなしにかかわらず念仏を唱えることで救われると説き、念仏踊りを勧めて諸国を行脚した。晩年病をおして四国から淡路・明石と遊行し、正応 2 年（1289）にこの地にあった寺の観音堂で 51 歳の生涯を終えた。山門を入れて本堂に向かうと、左手に一遍上人の廟所がある。その中央の石造五輪塔が一遍上人の墓塔である。

本堂に向かって右手にある観音堂には清盛が勧請した七弁天の一つとされる弁天が祀られていたが、神戸大空襲で焼失した。現在祀られているのはインドから招来した弁天像で、



インド神話に登場するサラスバティーという神という。弦楽器シタールを持っている像の表情は異国風である。その右隣りにふくよかな年齢千歳といわれる福祿寿がある。

## (7)薬仙寺

天平 18 年（746）に行基が開山したと伝えられる寺で、最初は法相宗、のちに天台宗となり、14 世紀に時宗に転じた。

境内に「大飢餓鬼会日本最初之道場」の石碑は建っている。飢餓に苦しむ鬼や霊に食べ物を施して仏に供養する施餓鬼修法をした最初の寺と言われている。

本尊の木造薬師如来坐像は桧の一木造り漆箔仕上げで、重要文化財に指定されている。膝裏の墨書銘から本来は阿弥陀如来ではなかったかとも言われる。「願掛け薬師」「やまい封じ」として敬われている。

この寺も神戸大空襲で経蔵を残して灰燼に帰し、阪神淡路大震災でも大きな被害を受けた。それにちなんで「神戸大空襲犠牲者慰霊碑」と「震災復旧モニュメント」が建っている。

福原遷都で御幸した後白河法皇の「萱の御所」がこの地に置かれた。本堂の横にそれを示す碑がある。清盛が法皇を幽閉したという三間四方の板屋である。

## (8)和田神社

万治元年（1658）に武庫川の堤防が決壊し、武庫郡小松村にあったお宮のご神体である神輿が流されて和田岬に漂着した。そのご神体を古来和田岬に祀られていた「えびす」社「弁天社」とともに祀ったのが和田神社の始まりと伝えられる。当初は和田岬の海岸にあったが、明治 34 年に造船所の建設計画で現在地に遷宮した。

この神社は「航海の神」でもあった。鳥居には菱垣廻船問屋が享保 13 年（1728）に奉納したと刻まれている。菱垣廻船は百石以上の貨物船で、木綿・油・酒などを積んで江戸と大坂の間を定期的に航海した。

和田神社では神の使いとして白い蛇が崇敬されている。巳塚では陶器の白蛇に願い事を書いて納める。白蛇が初めて姿を現したという「影向松」は神木とされている。

(次回予告)

2022.2.5

兵庫史を歩く No.23 いにしへの芦屋再発見

**水車臼跡～猿丸翁頌徳碑～阿保親王塚**